

マクロ経済学第一 (社会工学科 2015 後期)

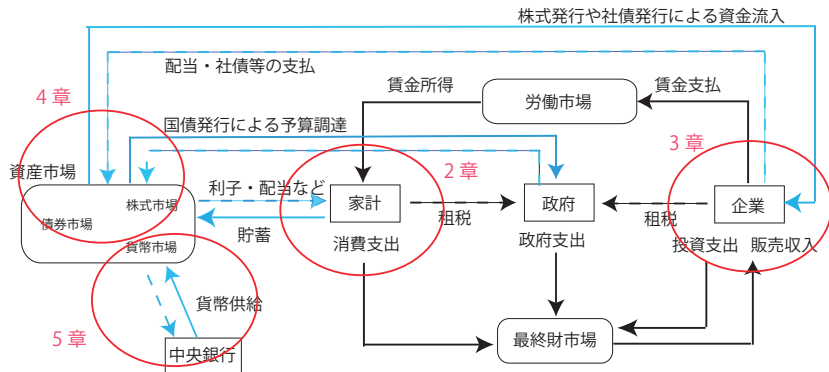
長期の経済分析

大土井 涼二

社会理工学研究科 社会工学専攻

2015 年 12 月 2 日

前回まで



— 家計貯蓄や企業・政府の借入による資金フロー

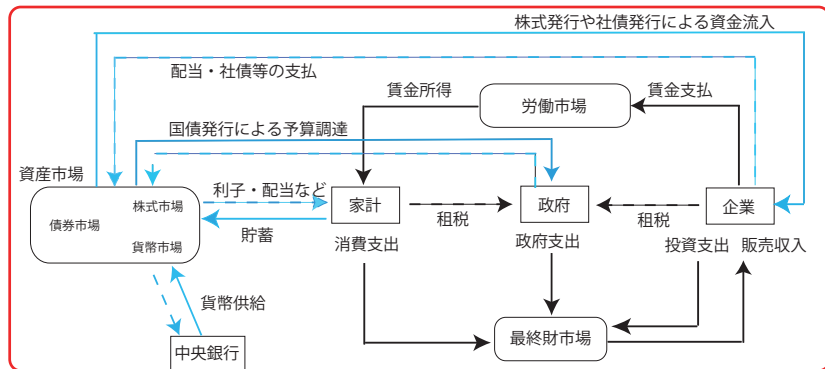
— 生産要素や財の取引による資金フロー

— 資産保有の対価としての資金フロー

— 税支払い

今回と次回

各マクロ経済変数の相互作用を分析



- 家計貯蓄や企業・政府の借入による資金フロー
- 生産要素や財の取引による資金フロー
- 資産保有の対価としての資金フロー
- 税支払い

仮定

分析に用いるモデル全体を通しての仮定

- ① 2 期間モデルである.
- ② 不確実性はない.
- ③ 全ての市場の需給が一致するように価格が速やかに調整される.
⇒ 失業や財の売れ残りは発生しない
- ↓
- ④ 従って、可変的な生産要素としては物的資本のみに着目する.
- ⑤ 閉鎖経済である.

注意：3の仮定について

- 『全ての市場の需給が一致するように価格が速やかに調整される.』という仮定
⇒ よりコンパクトに『**伸縮価格 (flexible prices)**を仮定する』とも言われる.
↓
- 逆に言えば,「価格メカニズムが需給ギャップを埋めるくらいの長いタイムパンを仮定する」という表現も可能.
↓
- 従って, 伸縮価格が仮定されたマクロ経済モデルを**長期のモデル**といい, 少なくとも1つの市場価格に硬直性が仮定されたモデルを**短期のモデル**という.

考察する市場は？

- 考察する市場：

- ① 財市場

- 供給サイド＝企業
 - 需要サイド＝家計

- ② (フローの) 資金市場

- 供給サイド＝家計
 - 需要サイド＝企業

(*) 既に述べたように完全雇用が達成されるため，労働市場は明示的に考えない．

財・資金市場の均衡と実質 GDP の決定

以下，補助資料をもとに板書で解説を行う．